

城下町絵図をもって水戸をぶらぶら

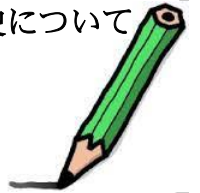
~Keimei 版ブラタモリ~

「ブラタモリ」を知っていますか？タモリさんが江戸の城下町絵図をもって、昔との違いや現在に残る昔の風景をぶらぶら歩きながら発見していくNHKの番組です。今の風景が当たり前で何気なく通り過ぎていた場所に秘密が隠されていたということが、番組内でも紹介されており、都市の形成にも歴史の影響が必ずあるということを気がつかせてくれます。水戸市にもさまざまな江戸時代の地図(城下町絵図・町絵図)が残っています。

4年前にも同じ企画を実施しましたが、ブラタモリが終了とともにこの企画も実施していませんでした。今年になってブラタモリがセカンド・シーズンとして復活を遂げたのに合わせて、この企画も復活しました。今回、選抜特進文理コースと社会科では5月16日に生徒17名とともに、Keimei 版ブラタモリを実施し、普段何気なく歩いている水戸市の再発見をしてきました。



中央にいらっしゃるのは、前回に引き続き案内人（ナビゲーター）である茨城大学教育学部教授 小野寺 淳先生です。2 度目の登場ありがとうございます！！まずは水戸の歴史について説明を受けています。



生徒が手にしているのは、水戸市の城下町絵図と現在の地図を合成した地図です。小野寺先生が中心に茨城大学が、景観変遷史法という手法で作成されたものです。この地図を持って、さぁ出発！！



いざ、出発！！



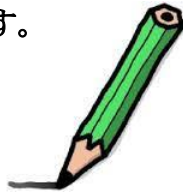


最初に訪れたのは、水戸でもっとも有名な徳川光圀の生誕の地に建立された神社です。

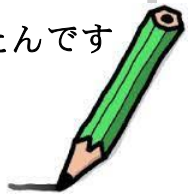
江戸時代の水戸藩について、説明が始まりました。



現在の水戸一高は水戸城の御本所（本丸）になります。現在は薬医門が当時の名残を残しています。



水郡線が通っています。奥は水戸駅になります。谷間に線路がありますが、ここは水戸城の堀の跡です。堀が線路に利用されていたんですね。





水戸三高付近を移動中。

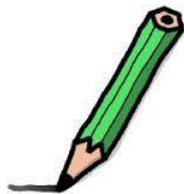
この白壁は最近になって、整備されたものです。

周辺は、復元された門などもあり、かつての雰囲気より濃くなっています。



4年前に実施したときの写真です。4年前は壁ではなく、柵でした。

雰囲気が大きく違いますね。



水戸藩の大きな業績に『大日本史』があります。この彰考館で水戸藩は総力をあげて、『大日本史』を編纂していました。

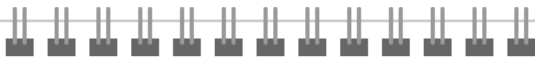
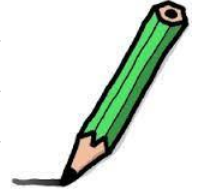
この場所も整備され、白壁と資料館ができていました。





大手門跡を通過し、第二の堀の上
を通過中。

大手門も復元計画が進行中！！



日本遺産に登録された弘道館！！
震災の影響を受け、無事に復興をと
げました。

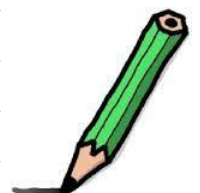
—弘道館と偕楽園とのつながりがあ
ることに驚きました。



弘道館の次は旧県庁舎。

水戸市内でも古い建物の一つです。

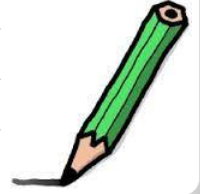
映画の撮影場所としても利用されて
います。





旧県庁舎を出ると、第二の堀が出現！！

さあ、これからは城下町の名残りを探しに出発です！！

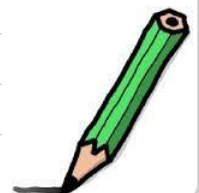


NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の重要な登場人物である吉田松陰。水戸に来ていたんですね！！

市街地のビルの中に説明の看板と石碑が残っていました。



水戸市街地のメインストリート国道50号線に出ました。かつては武家屋敷と町人町が形成されていました。





武家屋敷跡を歩いていると、「安積澹泊屋敷跡」という石碑が・・・。

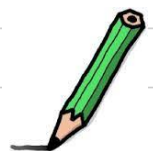
この人物、「大日本史」編纂に携わった学者ですが、水戸黄門でおなじみの格さんのモデルとなった人物です。



水戸市内には旧町名を記した石碑が良く見ることができます。「鷹匠町」は鷹狩りの鷹を扱う鷹匠が居住していたことが由来です。ほかにも「大工町」「金町」「馬喰町」など職業にまつわる町名も水戸にはあります。

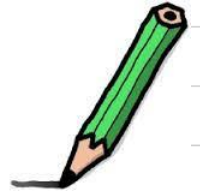


大工町の国道 50 号線沿いでは細長い区画が多く見られます。これは税金が間口で決まるため、町人町は間口（土地・家屋の正面の幅）が狭い細長い区画でした。現在もその区画の名残が見られます。



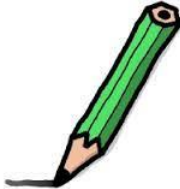


先ほどの場所から一本裏の通りに入ると、間口の広い区画が見られます。この地区は武家屋敷で、町人町とは異なった風景が見られます。



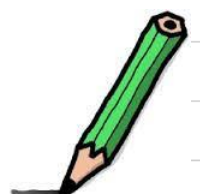
大工町の交差点の近くに第四の堀の跡があり、見学後、この授業も終了です。

多くの名残を見つけたかな？



この写真は、4年前に実施したときに大工町の再開発の工事を撮影したものです。

日々風景が変わっているのが、良く分かります。



水戸駅北口から大工町の交差点まで3時間近く歩き、引率の教員ばかりでなく生徒も疲れていました。しかし、案内人の小野寺先生は元気一杯で、そのエネルギッシュさに皆、驚いていました。

いつも通る道に新しい発見があるなど、身近であるけれども、良く見てみたり調べてみると驚きの事実が分かることを、生徒たちは五感を通じて、貴重な経験ができていました。

この経験を通じて、何気ないことでもよく観察し、自分の持っている知識を活用して考えていく力がついてほしいです。

熱心に解説をしていただいた小野寺先生、ありがとうございました。

後日談

生徒たちの中で、「もっと調べてみたい」という意識が芽生えたのか、もう一度同じコースを歩き、今回見学しなかった弘道館を見学し、文献やホームページを使って、詳しく調べる生徒がいました。

また、「今回学んだことを水戸市の発展にいかしたい」と考える生徒たちもおり、今回の企画がより発展したものになりそうです。

